

様式第1(第15条関係)

会 議 録

会議の名称	第1回部活動地域移行計画策定委員会	
開催日時	令和7年2月19日(水)19時00分から20時30分まで	
開催場所	市役所本庁3階 3A・3B会議室	
出席者	委 員	(順不同)中村委員、金谷委員、立石委員、小路山委員、大橋委員、田中委員
	和泉市	上田教育・こども部教育指導監 鍛冶教育・こども部次長兼教育総務課長 前田生涯学習推進室長 仲谷学校教育室教育指導担当課長 橋本生涯学習担当課長 富岡スポーツ振興担当課長 和田生涯学習担当総括主幹 奥田スポーツ振興担当総括主幹 山内学校教育室主幹 吉田教育総務課係長 藤原スポーツ振興担当総括主査 堀田生涯学習担当総括主査
会議の議題	1. 教育指導監挨拶 2. 委員紹介及び職員紹介 3. 委員長及び副委員長の選任 4. 諮問書の提出 5. 議題 (1)部活動地域移行計画の策定について (2)和泉市部活動地域移行推進計画素案について 6. その他	
会議の要旨	・中村委員を委員長に、田中委員を副委員長に選任した。 ・和泉市教育委員会から和泉市部活動地域移行計画策定委員会に和泉市部活動地域移行計画の検討について諮問した。 ・議題(1)部活動地域移行計画の策定について、事務局から説明し、質疑応答を行った。 ・議題(2)和泉市部活動地域移行推進計画素案について、事務局から素案を提示し、意見交換を行った。	

会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の確認方法	☒ 会議の議長の確認を得ている ☐ 出席した構成員全員の確認を得ている ☐ その他()
その他の必要事項	・会議の形式:公開 ・傍聴人:0名
審 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)	
(司会進行:事務局) ・事務局から委員会開催についての説明 本委員会は公開で開催することを報告。 ・事務局から出席委員数の確認 委員総数6名のうち、出席者6名となっており、和泉市部活動地域移行計画策定委員会規則第6条第3項の規定に基づき、会議が成立していることを報告。 1. 教育指導監挨拶 2. 委員紹介及び職員紹介 3. 委員長及び副委員長の選任 和泉市部活動地域移行計画策定委員会規則第5条第1項の規定に基づき、委員の互選により、委員長に中村委員、副委員長に田中委員を選出。 4. 諮問書の提出 和泉市部活動地域移行計画策定委員会規則第2条の規定に基づき、和泉市部活動地域移行計画の策定にあたり、諮問を行う。 (司会進行:中村委員長) 5. 議題 (1)部活動地域移行計画の策定について 部活動地域移行策定までの流れ、和泉市の部活動の状況等について、事務局から説明 (2)和泉市部活動地域移行推進計画素案について 和泉市部活動地域移行推進計画素案について、事務局から説明	

委員：資料2の5ページに外部指導者、部活動指導員とあるが、これらはどう違うのか。

事務局：外部指導者は顧問の先生と一緒に種目の指導をしている。

部活動指導員は、顧問がいなくても、部活動を指導できる。

委員長：現場での認識を確認したい。

委員：実際には部活動指導員が単独で指導している部活もあれば、顧問と一緒に指導している部活もある。

部活動指導員は単独でも引率が可能だが、任用している部活動指導員の10人全員が単独で顧問として部活を指導しているというわけではないと思われる。

委員長：大きな違いは権限の問題。外部指導者の方は単独で部員を引率する権限がなく、必ず顧問が引率している。部活動指導員は顧問がいなくても、引率して試合などに参加できる権限があるという点で、かなり大きな違いがある。

委員：市町村の財力や環境の面も影響があり、地域展開の方向性を1つにまとめるのが難しい。

和泉市部活動地域移行推進計画素案(以下、「計画素案」という。)で示されている3点の方向性以外になかなか方法がないのではないかと感じる。ただ、部活動指導員も時間や金銭面の折り合いが難しく、どう充実させるか。また、大学との連携も質の確保など中身を考える必要がある。

委員：私も計画素案で示されている方向性でいいと思う。部活動指導員は、見合う人を見つけることが大変。

希望にマッチする人材がいるならば、学校が部活動指導員を要望する数はもっと多くなると思う。

合同部活動・拠点校部活動の実施は現実的な策と考える。実際に進めていく上で、移動の問題や複数の学校の生徒と一緒に活動することでの困難さも出てくるので、具体的なカバーの方法も検討したい。

委員：和泉市の顧問の先生は非常に頑張ってくれていると感じる。自分も子どもたちの夢を実現したいという気持ちで先生をやっていた。校長等を中心に、子どもたちの夢の実現や人間的魅力を兼ね備えた人間の育成に全力を尽くして頑張してほしい。

また、環境の整った施設を活用できると子どもや保護者も喜んで活動することを、過去のスポーツ推進委員主催の事業でも実感している。

委員長：計画素案の理念的なところも切り崩して、子どもの夢の実現や居場所づくり、ステップの場になっているかを軸に据えて議論する必要がある。

委員：文化協会は各学校に応援に行く活動を始めている。人員が足りないのであれば、応援したい気持ちはある。ただ、全中学校となると、年齢や時間帯、指導力の問題ですべては難しい。どれだけの要望があるのか具体的に知りたい。

委員：自分自身も運動をしたいし、学校の協力もしたいと思いながら、多くの先生がその両方はできていない現状があると思う。体育協会も協力はできるが、どこまで専門的な知識を持って教えられるか。また、中学生と一緒に体を動かしながら指導するとなると年齢的に難しい人もいる。

それと、和泉市内でスポーツができる場所が少ないように思う。スポーツクラブが中心になって、若い年齢層でチームを組むことができるとクラブが盛んになる。施設の面と指導員の面と両方が重なると底辺が広がっていくと思う。

委員長：第2回に向けて、情報を共有したい。

人材バンクの登録者数と、その活用ができる状況かどうか。報酬について、現状どのくらいの収入であるか。部活動指導員が最低限守るべき基準。部活動がしやすい環境の確保について。などの整理が必要と考える。

委員：指導者を見つけてくるのも校長で、その方が方針と合わない場合に指導するのも校長なので、人材選びは慎重になる。子どもを健全育成するためにいい人材として、教員に兼務発令する選択も考えられているのか確認したい。

委員：部活動指導員と熱意ある顧問で拠点校の指導を推進していった先に、顧問の負担が過多になるのは本末転倒であると思うので、顧問の負担軽減にもつながることをゴールに考えるよう共通認識を持ちたい。

委員長：堺市でのアンケート結果では、勝ちたいと思って部活動をやっている子どもは本当にわずかで、友達と同じ場所で時間を過ごしたいという目的の子どもがすごく多い。

委員長：和泉市が計画素案で示している方向性そのものはいいので、中身を詰めるためのデータの確認等を行いたいことをまとめとして、次回につなげたい。

6. その他

特になし。

(司会進行：事務局)

・これをもって、第1回部活動地域移行策定委員会を終了する。